

ナノマテリアルのリスクと社会受容 Risk and Social Reception of Nanoparticles

押尾 茂¹, 武田 健² (¹奥羽大学薬学部, ²東京理科大学薬学部)

ナノテクノロジーは、第3期科学技術基本計画(平成18-22年度)において、重点推進4分野に選定されるなど、技術立国を標榜する我が国の将来を担う、重要な基盤技術として大きな期待が寄せられている。すでに、様々なナノマテリアルの開発・製造・応用が開始され、燃料電池、ドラッグデリバリーシステム等において革新的な素材として注目されている。一方、最近、ナノマテリアルの健康影響を懸念する研究結果が相次いで報告されており、ナノサイズの物質の生体影響評価という全く新しい分野であるために、リスク評価手法の標準化などが出来ていないなど、様々な問題点が存在する。しかし、わが国のナノテクノロジー産業を世界の最先端を走れるようにするためには、ナノマテリアルの健康への影響に関し十分な基礎研究を行い、安全性を確認した上で円滑に社会に受け入れられることが求められている。

本シンポジウムでは、ナノマテリアルの健全な社会受容をめざして、現在、本分野の第一線で活躍されている5人の研究者にナノマテリアルの各種リスク評価の現状およびナノマテリアルを用いた新しい治療法に関する講演を依頼し、健康というキーワードからナノテクノロジーの現状を明らかにするとともに、後半部のパネルディスカッションでは、出席者とともにリスク評価と画期的応用への道筋を展望する討議を行うことを目的としている。興味をお持ちの多数の会員の出席を希望します。